

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

県政をもっと身近に



<http://www.araikinuyo.jp>

子育て、東京五輪、商店街魅力アップ施策に着眼 神奈川県2019年度当初予算、初めて4兆円超


県議会第1回定例会で県の2019年度当初予算案などが可決・承認されました。当初予算は私たちの生活に関係の深い一般会計が1兆8299億円、国保事業などの特別会計2兆719億円、水道事業などの企業会計1136億円で3会計合わせ4兆155億円となっており、当初予算の合計額が初めて4兆円を超えた規模になっています。借金に当たる県債残高が5年連続で減っているとはいえ2018年度末で3兆4486億円に上る厳しい財政状況です。4月に知事選挙があるため骨格予算となっていますが、暮らしに直結する事業や継続事業の必要性について考慮し、一般会計は前年度とほぼ同じ規模となっています。

一般会計で県は重点事業として9つの事業を掲げています。「未病改善の取り組みや地域医療体制の整備」「障がい・高齢福祉施策の推進」「県内経済・産業の活性化」「行ってみたい神奈川の魅力づくり」「神奈川スマートエネルギー計画の推進」「安全で安心なまちづくり」「子ども・子育てへの支援」「ラグビーW杯、東京五輪・パラリンピック大会に向けた取り組み」「県立高校改革・県立教育施設整備や共生社会推進に向けた教育の推進」となっています。この中の具体的施策として私が着目したのは一。

【幼児教育・保育の無償化】 国が10月から予定している幼児教育・保育の無償化の方針に沿って139億8952万円の事業費を計上。このうち99億1471万円が利用料分、他は事務費やシステム改修費など。対象は3～5歳児と住民税非課税世帯の0～2歳児合わせ約22万人。財源は国からの臨時交付金による。子育てに関し県が内容の一部を強化していくとしている虐待防止対策推進事業費(保護者に対するカウンセリング、児童相談所への弁護士機能など)にも注目。

【ラグビーW杯・2020東京五輪関連】 五輪を見据えた警備体制強化として5億1190万円、東京2020NIPPONフェスティバルに向け横浜で県内各地の多様な人材を題材としたイベントを開催する費用として1000万円、今秋のラグビーW杯開催時期に県民ホールなどで「かながわ伝統文化ウィーク(仮称)」=伝統芸能公演、体験ワークショップなど=を開催する費用として7000万円を計上。

【商店街魅力アップ事業費補助】 3400万円。対象は昨年度で30件。今年度から「共生社会実現に向けた取り組み」も対象事業に。4月15日まで申請を受け付け。



コレが言いたい!

今回の当初予算は骨格予算であり、暮らしに直結する事業や継続事業に対して予算編成を行っていますが、9つの重点事業の中で「未病改善の取り組み」や「かながわスマートエネルギー計画の推進」など県民が未だ成果を感じられない事業もあります。特に、スマートエネルギー計画は高い目標を設定しており目標に達成出来るか疑問であります。今後、事業を進める上で、「未病の指標」や達成可能なスマートエネルギー計画の目標値などを明確に県民に示すことが必要であると考えます。

今月のひと言

4月27日から5月6日は10連休となり、県の機関は原則として閉じることになりますが、県立病院の入院部門、児童施設の入所部門、かながわ県民活動サポートセンターや県立博物館、県立図書館などは連休中も全日業務を行います。また、県立病院の外来部門や運転免許センターにおける運転免許更新手続きなどは連休中の2日程度開庁します。

磯子 あれ? これ?

磯子区の文化財「杉田八幡神社・狛犬」

杉田八幡神社は、康平6(1063)年に源義家が創建したと伝えられています。

神社拝殿前には神様をお護りする左右一對の和様狛犬(獅子)があり、背に元禄5(1692)年と年号が入っていること、口を空けた姿が他に類を見ない大変めずらしいものです。大きさは、共に像高49cmで、口を開けたものが阿(あ)(雄)で、口を閉じているものが吽(うん)(雌)とされています。

阿と吽は、サンスクリット語の「阿」が最初の音で、「吽」は最後の音を表していて、仏教の影響が残っていたといえます。狛犬のルーツは、エジプトのスフィンクス(守護神)がシルクロードを経由して日本に伝わり、日本流にアレンジしたものではないかと想像されています。

口を空けた「阿」の狛犬は上あごが欠けていますが、これは明治から大正、昭和初期にかけて活動した磯子の「杉田相撲団」の団員等が力比べて狛犬を持ち上げたり、投げ飛ばしたりして欠損したとのこと。

狛犬は、平成元(1989)年12月25日に横浜市の文化財に登録されました。

参考:横浜市の指定・登録文化財、八幡神社宮司の話



活動報告

3月8日に開催された予算委員会では下記の質疑を行いました。

平成31年度の予算の編成方針について/財源不足対策について/平成31年度県税収入について/臨時財政対策債について/10月から実施される「幼児教育・保育の無償化」について/保育の質の確保について/医療的ケア児の支援について/目と耳

の両方になんらかの不自由を抱えている「盲ろう者」への支援について/平成31年度当初予算案における交通安全施設整備費について/音響式信号機の整備について/障がい児・者が地域で安心して暮らせる「バリアフリーのまちづくり」の取り組みについて/公共・県単独土木事業について



あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株) / (株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生

- 平成27年4月 県議会議員2期目当選
- 産業労働常任委員会委員
- ともに生きる社会推進特別委員会委員長
- 美しい環境づくり推進協議会委員
- 政務調査会副会長

